



Path Analysis

この章では、Path Analysis の概要を説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [Path Analysis の操作 \(P.20-2\)](#)
- [コール詳細レコードのロギング \(P.20-2\)](#)
- [Path Analysis 設定のチェックリスト \(P.20-3\)](#)
- [参考情報 \(P.20-3\)](#)

Cisco CallManager と組み合わせて Path Analysis を使用するには、CiscoWorks2000 サーバに Common Management Foundation 1.1.1 Voice Manager パッチをインストールする必要があります。

Path Analysis の操作

Path Analysis は診断アプリケーションで、ネットワーク上の指定された 2 ポイント間の接続性をトレースします。Path Analysis は、これらのポイント間を流れるパケットが通る物理パスと論理パス（レイヤ 2 およびレイヤ 3）の両方を分析します。

コールの完了後、PathTool は発信側と着信側の電話番号を指定して、オーディオパケットのルートをトレースします。このトレースは、Cisco IP Phone、端末ゲートウェイに接続したアナログ デバイス、またはトランク ゲートウェイ（アナログまたはデジタル）の任意のエンドポイント間のコールに適用されます。

詳細については、CiscoWorks2000 のオンラインヘルプを参照してください。

この章の情報は、Cisco CallManager を設定する際に役立ちます。CiscoWorks2000 Campus Manager では、マップ、トレース ログ、またはテーブルの形式で、トレースしたパスを表示できます。

コール詳細レコードのロギング

Voice over IP (VoIP) トレースをアクティブにできるのは、Call Detail Record (CDR; コール詳細レコード) ロギングが使用可能になっている Cisco CallManager がインストールされている場合だけです。デフォルトの状態では disabled が指定されています。

Path Analysis 設定のチェックリスト

表 20-1 に、Path Analysis を設定する手順の概要を示します。

表 20-1 Path Analysis 設定のチェックリスト

設定手順	関連する手順と項目
ステップ 1	Path Analysis について、Cisco IP Telephony ネットワーク管理マニュアルを確認します。
ステップ 2	CiscoWorks2000 サーバに Common Management Foundation 1.1.1 Voice Manager パッチをインストールします。
ステップ 3	CDR ロギングを使用可能にします。

参考情報

関連項目

- 第 19 章 「CiscoWorks2000」
- 『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の第 25 章 「CiscoWorks2000 の概要」

参考資料

- CiscoWorks2000 ユーザ マニュアル
<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/rtrmgmt/cw2000/index.htm>
- Cisco IP テレフォニー ネットワーク デザイン ガイド
http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/ip_tele/network/

